

# 道徳科学習指導案

令和元年10月●●日（●曜日） 第●校時 2年●組教室 指導者 ●●●●

I 主題名 「よいこと、わるいこと」 【A—（1）善悪の判断、自律、自由と責任】

II 教材名 『おれたものさし』（新訂 新しいどうとく2 東京書籍）

## III 主題設定の理由

### 1 ねらいとする道徳的価値

本題材は、小学校学習指導要領の「主として自分自身に関すること」における、善悪の判断、自律、自由と責任の低学年「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」の価値をねらうものである。

「善悪の判断」とは、行為・行動に対して、それがよいことか悪いことか判断すること、「自律」とは、自分の気まますを押さえ、また自分で立てた規範に従って、自分のことは自分でやっていくこと、とある。低学年の目標が「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」であるから、特に「善悪の判断」「自律」の2点を意識する必要がある、と考える。また、「自律」の反意語の「他律」を見てみると、自らの意志によらず、他からの命令、強制によって行動すること、とある。周囲の意見や考えにとらわれることなく、自ら考え、善悪の判断をし、行動することが求められている、と考えた。

このように、授業者として「善悪の判断、自律、自由と責任」を考えた上で、「よいこととわるいこと」とは何かを児童とともに考え、話し合い、深めることが大切だと考える。そして、この授業で学んだことが日常生活において善悪を正しく判断し、よいと思うことを進んで行える一助となしてほしい、というのが私の願いである。

### 2 児童の実態（男子●●名、女子●●名、計●●名）

（実態については一部省略）

こうした児童の実態をもとに、教材『おれたものさし』を通して、自分のことだけでなく、他者はどう考えるのかまで視野を広げながら、正しい判断の下、よいことを進んで行うことの良い点について理解し、よいことを進んで行うことのできる児童へと成長してほしい、と考える。

### 3 教材について

本教材は、先生のものさしを折ってしまったのぼるが、近くにいたひろしに罪をなすりつけようと先生のものさしを渡す場面から始まる。のぼるの仲間たちがひろしのせいにしようとはやしたてる。それを見ていたぼくは、過去にひろしと同じように、のぼるに下じきを割った罪をなすりつけられた経験を思い出す。ぼくは思わずひろしの手からものさしを取り、のぼるに渡す。教室にいたみんなが一斉にのぼるを見る中、のぼるはだまっておれたものさしを受け取る、という話である。

加害者ののぼる、のぼるに加勢する仲間、被害者のひろし、善悪の判断を正しく行うぼく、周囲で見ている友達と、実生活でも起こりそうな設定なので児童も考え易い。ぼくのよさは、①自分の過去の経験を踏まえながらひろしを思い、正しい判断をし、行動できる点、②のぼるに加勢する仲間と異なり、他律して流されることなく、自分の立てたきまりに従って行動できる点が考えられる。また、そんなぼくだからこそ、③のぼるに正しい行動をしてほしい、という思いをもってものさしを渡したのではないかと考える。こうしたぼくのよさを通して、正しいことを進んで行うことの良い点に気付いてもらいたいと考えた。

以上のことから、「おれたものさし」を読んで、特に善悪の判断、自律について考えることで、よいことをするという事は、自分だけでなく、友達のためにもなるし、集団のためにもなる、と考えることができるであろう。

#### IV 主題構想 (別紙参照)

#### V 指導方針

##### ○事前 (指導)

- ・ 善悪の判断が問われる具体的な場面で自分がどうするかを問うアンケートを実施し、その結果をもとに、めあてを立てられるようにする。

##### ○導入部

- ・ 事前のアンケート結果をもとに、道徳的価値に対する認識の把握をするため、いいことをするとどんなことがあるかを問う。

##### ○展開部

- ・ 登場人物の把握と人物相互の関係性、児童の道徳的価値の把握をするために、よいこと、悪いことをした人と、そう思った理由を聞きながら、挿絵や矢印を用いて黒板に簡単に図式化する。
- ・ 「ぼく」「のぼる」だけだった場合、「他にはいないかな?」「ひろしはどう?」「周りの子たちは?」と問い返すことで、被害者の立場や周囲の立場にも視野を広げていく。
- ・ 教師と積極的な児童との一問一答にならないよう、「同じことを考えた人?」「そんな気持ちになったことがある?」等、個から全体へ広げる問い返しを入れていく。
- ・ 抽象的な表現では考えることが難しいので、例えを用いるなど、なるべく具体的な問い返しを行う。

##### ○終末部

- ・ 導入時に確認した「よいことをすると」を改めて問うことで、授業内での学びを確認できるようにする。
- ・ 児童が授業を通して学習したことを確認できるように、ワークシートに今日の授業の振り返りを記入させる。書くことが苦手な児童には、振り返りの視点や板書を参考にしながら記述させる。

#### VI 本時の学習

##### 1 ねらい

「ぼく」がのぼるにおれたものさしを渡したときの、のぼるやひろし、周りの友だちの心情を考え、もしできなかった場合の心情との比較をさせることを通して、よいことをすると自分や友達のためにもなることを捉え、よいことを進んで行おうとする態度を育てる。

##### 2 準備

教師：事前アンケート結果、挿絵、ワークシート

児童：教科書

##### 3 展開 〈○：発問 ◎：中心発問 ◇：問い返し、補助発問 ・児童の反応〉

過程	主な学習活動 ・ 予想される子どもの反応	時間	指導上の留意点 ● 配慮を要する児童への支援
導入	<p>1. 事前のアンケート結果から、「よいことをすると」の続きを考える。</p> <p>・ ほめられる。 ・ すっきりする。 ・ いやな思いをする。 ・ けんかになる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【問題意識】 よいと思うことをするのは、むずかしいな。</p> </div> <p>【めあて】 よいこと、わるいことについて考えよう。</p>	5分	<p>○ よいことをするとほめられたりすっきりしたりするが、反面実生活の中では、けんかになることもあり、実際に行動することはなかなか難しいという問題意識がもてるように、アンケートを実施し、その結果をもとに、めあてを立てるようにする。</p> <p>○ 「いやな思いをする」など、批判的な考えが出てきても、その意見に共感的に取り上げる。</p> <p>○ 出た考えを確認し、授業の終わりに付け足しができることが目標と伝える。</p>

<p>展開</p>	<p>2. 教材を読み、「よいこと、わるいこと」について考える。</p> <p>○よいこと、悪いことをした人はだれで、どうしてそう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼく…ものさしをのぼるに渡したから</li> <li>・のぼる…うそをついているから</li> <li>・周りの友だち…見て見ぬふりをしているから</li> </ul> <p>◎ぼくがのぼるにもものさしを渡したときの、のぼるやひろし、周りの友だちはどんなことを考えていただろう。</p> <p>(のぼる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悪かったな。・何だよ。</li> <li>(ひろし)</li> <li>・ありがと。・「ぼく」を大事にしよう。</li> <li>(周りの友だち)</li> <li>・自分も止めれば良かったな。</li> <li>・安心した。</li> </ul> <p>◇渡した「ぼく」のよさは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のぼるを助けられる。</li> <li>・クラスみんなが安心できる。</li> </ul> <p>◇もし渡すことができなかつたらどうなるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のぼるは悪いことを続ける。</li> <li>・今度は自分がされるかもしれない。</li> </ul>	<p>30分</p>	<p>○教材を範読する前に、児童が目的意識をもって聞くことができるよう、①よいことと悪いことをした人が登場すること、②それは誰で、なぜそう思うのか、考えながら聞くよう伝える。</p> <p>○「ぼく」「のぼる」だけだった場合、「他にはいないかな?」「ひろしはどう?」「周りの子たちは?」と問い返すことで、被害者の立場や周囲の立場にも視野を広げていく。</p> <p>○よいことをすることで、ぼく自身だけでなく、周囲にもよい影響を及ぼすことができる、というところまで視野を広げることができるように、ぼく以外を問う中心発問を行う。</p> <p>○発言がしやすいように、また友達の考えと自分の考えの相違点に気付けるように、自分の考えを書き終えた後、隣同士で伝え合う。</p> <p>○「同じことを考えた人?」「そんな気持ちになったことある?」等、個から全体へ拡げる問い返しを入れていく。</p> <p>○多面的・多角的に考えることができるよう、周りの友達の視点やのぼるの視点などで全体に問い返して考えさせていく。</p> <p>○善悪の判断に迫る発言については、「〇〇さんの言っていること分かる?」「(他の児童に) どういうことか説明してくれる?」等、深める問い返しを行う。</p> <p>●抽象的な表現では考えることが難しいので、例えを用いるなど、なるべく具体的な問い返しを行う。</p>
<p>終末</p>	<p>3. 改めて「よいことをすると」の続きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に信じてもらえる。</li> <li>・友達を助けられる。(周りの人の視点)</li> <li>・もっと仲良くなれる。安心できる。(周りとの関わりの視点)</li> </ul> <p>4. 振り返りの視点をもとに、自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いいことをするのは難しいけれど、友だちのためにも勇気をもってしてみようと思った。</li> <li>・よいことは自分のためだけでなく、友だちのためにもなることが分かった。</li> </ul>	<p>10分</p>	<p>○児童が道徳的価値の理解の深まりを実感できるよう、導入時の児童の発言を振り返り、授業を通して付け足しの考え、意見を問う。</p> <p>○以下の点を振り返りの視点として児童に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で考えたこと</li> <li>・友達の考えでいいなと思った考え</li> <li>・考え方の変化</li> <li>・自分の生活に生かしたいこと</li> </ul> <p>○授業を通して、自分事として考えられている児童や多面的・多角的に考えられている児童、これからの生き方につなげて考えられている児童の振り返りを取り上げ賞賛し、今後の生活への意欲付けを行う。</p>
<p>評価</p> <p>よいことをすると、自分や友達のためになることについて、自分との関わりで深めている。(発言・ワークシート)</p>			

内容項目	A 主として自分とのかかわりに関すること 善悪の判断、自律、自由と責任 (1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。			
系統	[第1学年及び第2学年] よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	[第3学年及び第4学年] 正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。	[第5学年及び第6学年] 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	[中学校] [自主、自律、自由と責任] 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

月	教科等・ねらい	道徳教育に関わる学習活動	道徳教育に関わる指導上の留意点
4 ～	○短学活等 具体的な場面を取り上げ、考えることで、よいこと悪いことの判断力を養う。	○日々の出来事の一場面を通して、よいことと悪いことについて考えさせる。	○実生活の中で起こるトラブルについて、何がよいことで、何が悪いことなのか考える。 ○考えなければいけないが増えるほど、判断は難しいことに気付けるようにする。 (例：友達のこと、時間のこと、規則 など)
7	○道徳「わすれられないえがお」 よいことをすると、自分の心がほっとする、安心することがわかる。	○よいことをするとどうなるか考える。 ○資料を通して、「よいこと、わるいこと」について考える。 ○振り返りシートに記入する。	○「よいことをするとどうなるか」を考えさせる。 ○葛藤している際のわたしの気持ちを考えさせた上で、黙っていたくなるわたしの気持ちやもし謝らなかったらわたしの心はどうなるか、おばさんの気持ちはどうかを考えることで、多面的・多角的に価値を理解させる。 ○授業で考えたことを踏まえて、改めて「よいことをするとどうなるか」、考えさせる。 ○視点を参考に、振り返りシートに記入させる。
7	○国語「きつねのおきやくさま」	○場面ごとのきつねの行動、心情を追い、善悪の判断に対する変化に気づく。	○場面毎に、きつねの行動とその時の心情を確認しながら読むことで、はじめは自分が食べたいがために相手に優しい行動をするきつねが、相手から認められることによって心を動かされ、心から優しい行動が取れるようになっていくことに気づかせる。
10	○道徳「おれたものさし」 よいことをすると、自分だけでなく、友達のためにもなることが分かる。	○よいことをするとどうなるか、考える。 ○資料を通して「よいこと、わるいこと」について考える。 ○振り返りシートに記入する。	○「よいことをするとどうなるか」を考えさせる。 ○ぼくの気持ちだけでなく、のぼるやひろし、他の友達の気持ちを考えさせることで、被害者の立場や周囲の立場にも視野を広げ、多面的・多角的に価値を理解させる。 ○授業で考えたことを踏まえて、改めて「よいことをするとどうなるか」、考えさせる。 ○視点を参考に、振り返りシートに記入させる。
11	○学活「人のいやがることをしない」 相手の気持ちを想像し行動することで、円滑な友達関係が築けるようにする。	○実際の場面を想定して、ロールプレイをして自分の気持ち、相手の気持ちを考える。	○ロールプレイの中で、互いの気持ちに気付かせる。 ○いいことや悪いことは頭で分かっている、自分の利益が関わってくると正しい判断ができなくなるときがあることを確認する。